

玉村町ワイドマップ



玉村町の指定文化財一覧

(令和元年9月1日現在)

種類	指定年月	指定物件名	所在地	所有者(管理者)
国重	M41.8.1	玉村八幡宮本殿1棟(附 棟札 6枚)	玉村町下新田1(玉村八幡宮)	玉村八幡宮
国重無形	H14.2.12	桶越神明宮の春祭	玉村町桶越412-4(神明宮)	春祭保存会
県重	H12.3.21	渡辺家文書 29冊「三右衛門日記」	玉村町福島325(町歴史資料館受託)	個人(町歴史資料館)
"	H20.9.12	小泉長塚1号古墳出土品一括(244点)	玉村町福島325(町歴史資料館他)	玉村町
"	H20.9.12	小泉長塚3号古墳出土品一括(276点)	玉村町福島325(町歴史資料館他)	玉村町
県重有民	H20.3.27	利根川中流域玉村町の漁撈用具一括(220点)	玉村町福島325(文化財整理室)	玉村町
県重無形	H27.3.24	五料の水神祭	玉村町五料1010(飯玉神社)	五料の水神祭保存会
県史	S24.1.11	斎藤宜義の墓	玉村町板井1065(宝蔵寺)	宝蔵寺
町重	S62.12.4	五丁自磨谷 1台	玉村町下新田1(玉村八幡宮境内)	五丁自磨谷内会
"	S63.9.29	六丁自磨谷 1台	玉村町下新田613-1、614-1	六丁自磨谷内会
"	H7.11.28	阿弥陀三尊像並びに阿弥陀板碑 3基	玉村町上之手1282(観照寺)	観照寺
"	"	文安銘五輪塔 2基	玉村町南生783(原家墓地)	個人
"	H12.4.27	脇差(藤枝太郎英義作)	玉村町福島325(町歴史資料館受託)	火雷神社(町歴史資料館)
"	"	人物地輪 2体	玉村町福島325(町歴史資料館受託)	個人(町歴史資料館)
"	H14.3.27	男子人物地輪 女子人物地輪	玉村町福島325(町歴史資料館受託)	個人(町歴史資料館)
"	H26.3.20	平藤玉造作 豊年満作之図	玉村町福島325(町歴史資料館)	玉村町(町歴史資料館)
"	"	平藤玉造作 横上人物百態図	玉村町福島325(町歴史資料館)	玉村町(町歴史資料館)
"	H28.2.18	玉村八幡宮御殿・幣殿(附 棟札2枚)、随神門(附 棟札2枚、附 随神門大修理記録1枚)、神楽殿、附 棟札2枚	玉村町下新田1(玉村八幡宮)	玉村八幡宮
町重無形	S46.4.1	稲荷神社獅子舞(上新田)	玉村町上新田1590(稲荷神社)	稲荷神社獅子舞保存会
"	"	すみつけ祭(上福島)	玉村町上福島1001(上福島公民館)	すみつけ祭祭典委員会
"	"	横溝首領(南玉)	玉村町南玉760(住吉神社)	横溝首領保存会
"	"	祇園祭(上新田)	玉村町上新田1590(稲荷神社)	上新田区
"	"	祇園祭(下新田)	玉村町下新田1(玉村八幡宮)	下新田区
"	"	祇園祭(角洲)	玉村町角洲2075-1他(角洲八幡宮)	角洲区
"	H12.4.27	地蔵祭(箱石)	玉村町箱石342-1(養徳寺)	地蔵祭保存会
"	"	菱崎御神事(下之宮)	玉村町下之宮524(火雷神社)	菱崎御神事保存会
"	"	恵蔵払い(飯塚)	玉村町飯塚295(飯玉神社)	恵蔵払い保存会
"	"	恵蔵払い(藤川)	玉村町藤川155-1(稲荷神社)	恵蔵払い保存会
町史	S44.10.1	梨ノ木山古墳	玉村町下茂木1027-1・2・3	個人(2名)・玉村町
"	"	筆記山古墳	玉村町角洲4755-1・2	玉村町
"	H7.11.28	五料関所跡門柱礎石・井戸	玉村町五料1066-1・2・7	玉村町
"	"	木鼻本陣跡歌碑1基	玉村町下新田484-1	個人

※国の選択・記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 五料の水神祭 (H14.2.12) 五料1010
 国の登録・登録有形文化財 小泉の重田家住宅 (H13.11.20) 小泉42
 (主屋、蔵、西の蔵、外便所、東の蔵、井戸、土蔵、裏門及び塀)
 国の登録・登録有形文化財 井田家住宅主屋 (H26.4.25) 上新田1626
 国の登録・登録有形文化財 玉村八幡宮末社園城院神社(旧玉村町立高等小学校校舎受託) (H26.10.7) 下新田1
 県の登録・くまみ道連 渡辺家住宅主屋 (H24.10.17) 福島1328

- 国重……国指定重要文化財 ●県史……県指定史跡
- 国重無形……国指定重要無形民俗文化財 ●町重……町重要文化財
- 県重……県指定重要文化財 ●町重無形……町重要無形民俗文化財
- 県重有民……県指定重要有形民俗文化財 ●町史……町史跡
- 県重無形……県指定重要無形民俗文化財

玉村の地名伝説

伊勢(天長年間)九三八(九四七)、沼田(五料地域)の里(玉村)に住む美しい娘がいて、錦の里(玉村)に住む若者と相思相愛の仲でした。しかし、娘の美しさを妬んだその土地の豪族が、平野の里に娘を流すことを企てました。これを聞いた娘の父は、娘を若者のもとへ連れて行きましたが、追手に身を流す矢川のほとりに追い込まれ、ついに川に身を流してしまいました。このとき、駆けつけた若者も同じく身を流してしまいました。その後、この川に光る二つの碧玉が漂うのを見た村人は、娘が「龍神」の化身で、玉は「龍神のあきと」である玉の精と考へ、この玉を拾い上げ、近戸大明神として祀りました。利根川の洪水の中に龍神が現れ、竜巻を起して祀った碧玉を持ち去ってしまいました。そこで、村人は残った碧玉を二重の箱におさめ満福寺に祀りました。その後も洪水がよく起こったため、新玉村(上新田・下新田)をつくり、龍の玉によりできた村であるため、玉村と呼ぶようになりました。